

平成26年5月28日

環境への配慮、バリアフリー対応、安全性向上を高次元で実現した通勤車

13000系車両がいよいよ本線で営業運転を開始！

京阪電気鉄道株式会社（本社：大阪府中央区、社長：加藤好文）では、平成24年4月にデビューし、現在、交野線・宇治線にて運用している13000系車両につきまして、平成26年5月30日（金）より、京阪本線（鴨東線・中之島線含む）での営業運転を開始します。これまでもイベント列車として本線を走行したことはありましたが、本格的に営業運転をするのは初めてとなります。

今回、本線で営業運転を開始するのは13000系車両2次車、7両1編成です（これに先立ち、平成26年4月から、13000系車両2次車（4両1編成）が交野線・宇治線にて営業運転を開始しています）。13000系車両は、これまでの当社車両開発時に蓄積された技術やノウハウを結集し、特に環境への配慮やバリアフリーへの対応、安全性の向上などに主眼を置いて開発された車両ですが、同2次車につきましては、当社として初めて車内照明および前部標識灯（ヘッドライト）にLEDを採用し、さらなる省エネ化を図っています。また、バリアフリー対応として、目の不自由なお客さまにドア開閉を動作に合わせてチャイム音でお知らせする「ドアチャイム」を新たに導入し、今まで以上に安全性も向上させています。

13000系車両2次車の本線営業運転の詳細は別紙のとおりです。



▲ 13000系車両2次車

(別 紙)

13000系車両2次車について

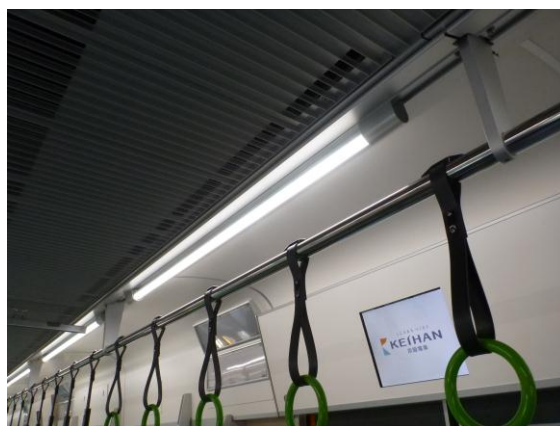
1. 運転開始日

平成26年4月 7日 (月)	4両×1編成 (交野線・宇治線にて営業運転中)
平成26年5月30日 (金)	7両×1編成 (本線にて営業運転開始)
平成26年7月末	7両×1編成 (本線にて営業運転予定)

2. 特徴 (13000系車両1次車からの変更点)

- ・車内照明および前部標識灯 (ヘッドライト) にLEDを採用し、さらなる省エネ化を図っています。これにより、車内照明では約53%、前部標識灯 (ヘッドライト) では約78%の消費電力量削減を実現します (いずれも13000系車両1次車と比較した場合)
- ・バリアフリー対応として、目の不自由なお客さまにドア開閉を動作に合わせてチャイム音でお知らせする「ドアチャイム」を導入し、今まで以上に安全性の向上を図っています

※今回の13000系車両2次車を導入し、従来車両 (2200系) 21両との代替が完了した場合、運転用電力量全体では約2%の電力量削減が実現する見込みです (1次車と2次車を合計した電力量削減率)



▲車内照明 (LED)



▲前部標識灯 (ヘッドライト) (LED)

(ご参考)

13000系車両1次車について

1. 特徴

①環境への配慮

- ・アルミ合金製車体とVVVFインバータ制御装置を採用し、本車両と代替される従来車両（2600系）との比較で約35%の電力量を削減。2600系20両との代替が完了し、運転用電力量全体では約1%の電力量削減が実現しました（20両で年間約60万m³のCO₂排出を削減）。
- ・低騒音タイプの機器の採用などにより、走行時の騒音を低減しました。

②バリアフリーへの対応

- ・車いすスペース、車内案内表示器、転落防止外ほろ、誘導鈴、扉開閉予告灯を設置しました。
- ・荷棚の高さを従来車両よりも20mm低い1750mm（優先座席部上は従来より50mm低い1720mm）とし、より使いやすくしました。
- ・当社車両では初めて、扉の端部と出入口の足元にオレンジ色のラインを配置し、視力の弱い方にもわかりやすくしました。

③安全性の向上

- ・セミダブルスキン構体の採用、正面強度の向上やオフセット衝突の対策など、種々の車体強度向上策を施しました。
- ・万が一の事故や急ブレーキ時に、お客さま同士や、お客さまが車内設備に衝突することでケガをされることのないよう、握り棒を増設し、座席端部の仕切板を大型化。また、危険な角部を極力なくしたやさしい設計としました。

④サービスの向上

- ・液晶式の車内案内表示器を設置。
- ・除湿機能を備えた全自動空調装置を採用。
- ・ゆったりと座っていただけるよう、一人当たり座席幅470mmのバケットシートを採用。
- ・ダイレクトマウント式空気バネ台車の採用により、快適な乗り心地を実現しました。

⑤デザインコンセプト等

平成20年の3000系新造時に導入した車両全体の基本デザインコンセプト「風流の今様」を継承しました。エクステリアデザインでは、「風流の今様」を具現化するモチーフとしての「スラッシュ・ムーン」と呼ぶ円弧形状に加え、コーナーにエッジをもたせた「ウェッジシェイプ」というテーマを導入し、通勤車らしい軽快感を演出しています。インテリアデザインでは、外観との調和も考慮して、萌黄色を座席や吊り手に用いたほか、サブカラーには墨、アクセントカラーとして橙を採用、京都のテイストを感じさせつつもモダンな、これまでの通勤車両にない大胆なデザインとしました。

2. 主要諸元

- ①車 系 13000系

- ②最大寸法 先頭車：
18,900mm（長さ）×2,792mm（幅）×4,195mm（高さ）
中間車：
18,700mm（長さ）×2,792mm（幅）×4,116mm（高さ）
- ③定員 先頭車：128人（うち座席 43人）
中間車：137人（うち座席 49人）
- ④座席 ロングシート（バケットシート）
- ⑤構体 アルミ合金
- ⑥制御装置 VVVVインバータ方式
- ⑦両数 20両（4両×5編成）
- ⑧車体製造所 川崎重工業株式会社

以上